

大阪科学・大学記者クラブ 御中

(同時提供先：文部科学記者会、科学記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ)

2024年5月29日

大阪公立大学

日本での「好酸球性食道炎」の疾患動向を初めて明らかに —1500万人以上の大規模レセプトデータから分析—

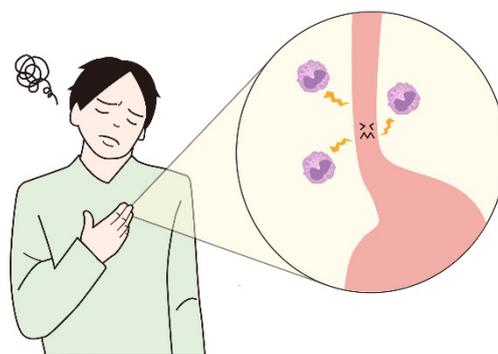
<ポイント>

- ◇指定難病「好酸球性食道炎」の日本での罹患率[※]を、18年間のレセプトデータを用いて大規模調査。
- ◇欧米同様に罹患患者数が増加していることが判明。
- ◇生活習慣関連因子である喫煙と飲酒が、それぞれ発症リスクの低下と上昇に寄与。

<概要>

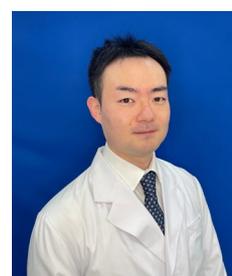
好酸球性食道炎（EoE：Eosinophilic esophagitis）は、つかえ感や胸やけなどの食道症状を引き起こす、指定難病の一つです。原因は食物や空气中に浮遊しているアレルゲンで、30代～40代の中年男性に多い疾患です。欧米では約30年前から罹患患者数が急激に増加していますが、日本を含めたアジアでは詳しい調査が行われておらず、その動向は不明でした。

大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学の沢田 明也病院講師、田中 史生准教授、藤原 靖弘教授、医療統計学の今井 匠特任講師（現 神戸大学医学部附属病院 特命准教授）、井原 康貴大学院生（大阪市立大学大学院医学研究科 博士課程4年）らの研究グループは、2005年から2022年に収集した15,200,895人の大規模レセプトデータを用いて、日本におけるEoEの罹患率を初めて調査しました。その結果、2022年のEoE罹患率は10万人あたり2.82人で、2017年と比較すると3倍に増加していました。さらに、EoE関連因子の解析では、喫煙が発症リスクの低下、飲酒が発症リスクの上昇に寄与していることが明らかになりました。本成果は、EoE発症への遺伝や環境因子の関与について、さらなる理解のために役立つことが期待されます。



本研究結果は、2024年5月14日に、国際学術誌「Clinical Gastroenterology and Hepatology」のオンライン速報版に掲載されました。

診療の現場で、好酸球性食道炎の患者さんが日本でも増加していることを実感していました。今回大規模データを用いることで実際に罹患率や有病率の増加を確認することができました。今後、さらなる疾患認知度向上につながることを期待しています。



沢田 明也病院講師

EoE は食道の粘膜上皮に好酸球という白血球が増加する慢性アレルギー性疾患で、中年男性に多い疾患です。つかえ感や胸やけが典型的な症状で、食道に縦走溝や白斑などの特徴的な内視鏡所見がみられます（図 1）。食物や空気中に含まれる花粉などのアレルギーが原因と考えられていますが、病態は十分に解明されていません。1990 年代から増加傾向にある比較的新しい病気で、特に米国や西欧において患者数が急激に増加していることが報告されていました。しかし、日本を含むアジアにおいて一般人口を対象とした罹患率の報告はなく、EoE のアジアにおける疾患動向は不明でした。また、EoE と生活習慣との関係についても十分には研究されていませんでした。

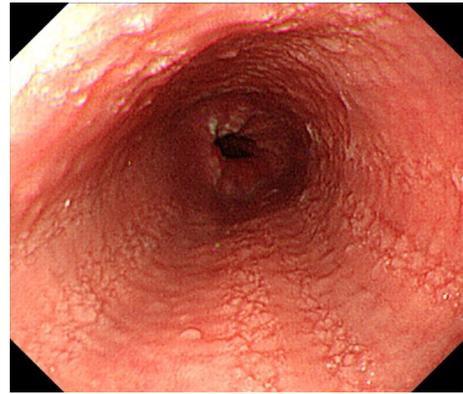


図 1 好酸球性食道炎（EoE）の内視鏡所見

<研究の内容>

本研究は、株式会社 JMDC が提供する健康保険組合のレセプトおよび健診データからなるデータベースを用いました。同データベースは、健康保険組合加入者に対して保険診療で行われた診断や検査、治療について組合加入中の情報を追跡することが可能です。

解析の結果、EoE 患者は過去 20 年間で急激に増加しており、2022 年には罹患率が 10 万人あたり 2.82 人、有病率が 10 万人あたり 10.68 人でした（図 2）。また、喘息などのアレルギー疾患に加えて、喫煙や飲酒といった生活習慣が EoE 発症に関与することが明らかになりました。EoE は主に先進国に多い疾患であるといわれていますが、日本の EoE 罹患率はこれまで報告されていたアメリカの白人やアジア系アメリカ人のデータよりも低く、EoE 発症に遺伝的要因や生活環境が関与することが示唆されました。

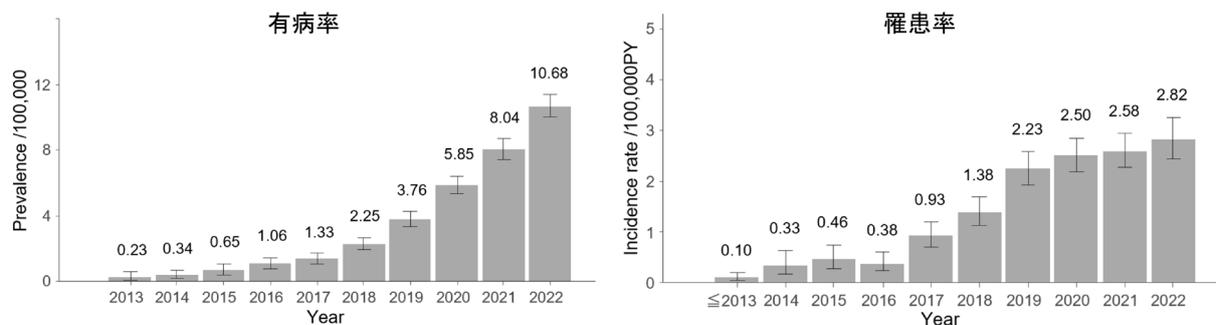


図 2 日本における EoE の有病率、罹患率の推移

<期待される効果・今後の展開>

今後は、生活習慣の EoE への関与について前向き試験で検証することにより、EoE のさらなる病態解明への寄与が期待されます。

<資金情報>

本研究は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社の研究助成 (Grants for patient's life, #75267729) を受けて行われました。

<用語解説>

※1 罹患率...一定期間にどれだけの疾病者が新たに発生したかを示す指標。

※2 有病率...ある一時点において、疾病を有している人の割合。

<掲載誌情報>

【発表雑誌】 Clinical Gastroenterology and Hepatology

【論文名】 Epidemiology and Risk Factors of Eosinophilic Esophagitis in Japan: A Population-Based Study

【著者】 Akinari Sawada, Takumi Imai, Yasutaka Ihara, Fumio Tanaka, Ikuo Hirano, Yasuhiro Fujiwara

【掲載 URL】 <https://doi.org/10.1016/j.cgh.2024.04.035>

【研究内容に関する問い合わせ先】

大阪公立大学大学院医学研究科
病院講師 沢田 明也（さわだ あきなり）
TEL : 06-6645-3811
E-mail : a.sawada@omu.ac.jp

【報道に関する問い合わせ先】

大阪公立大学 広報課
担当：竹内
TEL : 06-6605-3411
E-mail : koho-list@ml.omu.ac.jp